

連載 “Well-being” ことはじめ
第8回 “ロシアのトンネル：人間は、社会的な動物である”

臨床心理士・カウンセラー 三村 和子

これまでに引き続き、レオ・ボルマンズ氏によってまとめられた「世界の学者が語る『幸福』」に示された格言を用いて、目の前の具体的な問題を、基礎情報学をもとに検討していきたい。今回のメッセージを読んでみよう。

「人間は社会的な動物である」

このメッセージを記したのは、サンクト・ペテルブルグ大学とトリノ大学で調査・研究活動を行った後、東欧研究所（ドイツ）で研究員をしているエカテリナ・セレズネワ氏（ロシア）である。セレズネワ氏は、経済学、労働市場、ジェンダー、そして主観的ウェルビーイングとの関係に関心がある。

セレズネワ氏は、1990年代の初頭以降、ロシア人の考え方が新しくなっていること、そして社会と経済の構造が変化したことを受けて、ロシアに独特の現象である「トンネル効果」が現れたことについて語っている。セレズネワ氏の研究では、特にロシアの経済体制が変化する混乱の時期における「準拠集団（＝自分と同じ社会的レベルにあって、自分の生活の比較対象になりうる人々）」の幸福と社会規範に与える「トンネル効果」の影響に焦点が当てられている。

「トンネル効果」とは、トンネルで交通渋滞の中を走っている場合に自分とは違う車線を走っている車がどんどん前に進んでいけたとしたら、自分も前に進んでいけると期待して喜ぶだろう——「次は自分の番だ。落ち着いて、焦ることはない。幸福の女神は間もなくやってくるだろう・・・」というような——車を運転する場合によく経験するような感覚を指す。セレズネワ氏は、この種の感覚を抱かせるような極端な流動性が社会にもたらされることは、「ゲームのルール」が長い間固まっている社会ではめったに起こらないが、ロシアでは起こっていたと指摘する。更に、変革が始まってから15年が経過した2002年に「市場経済体制を持つ国としての地位を確かなものにした時点でも、その移行の過程は、国民の精神の上ではまだ完了していなかった。準拠集団の中で他の人よりも得るものが少なかった人々は、依然として自分達の状況が改善されるだろうと信じていた。」と語る。

「人間は社会的な動物である。」とは、ロシアにおける市場経済体制の確立といった人生全体に深刻に作用するものでも、「普段の生活では容易にはわからないものだ。直接的であれ間接的であれ、知っている人々だけではなく、知らない人々を含む関係の中に組み込まれ

ることは、世界中の誰かと絶えず比較されることを意味する。」とセレズネワ氏は語る。

セレズネワ氏のキーメッセージは次の3つである。

- ・いつも楽観的に将来を考えなさい。そして幸運を祈りなさい。
- ・その一方で、自分の番が来るのをただ待っているだけではいけない。積極的に行動し、スキルを高めなさい。
- ・この世は絶えず変化し続けている。「古いゲームのルール」に黙って従ってはいはならない。

今回のメッセージを基礎情報学による分析を用いて検討したい。市場経済体制の確立という出来事も、「社会的 HACS から眺めると、参加メンバーの心的システム^{*3)}があたかも他律システムのように見え」、ロシア人の社会的コミュニケーションにおいては、「マスメディア・システムを最上位、社会システムを上位、心的システムを下位とする」階層関係が成立している。ロシア人の心的システムに拘束／制約を与える上位の社会システムは複数あり、政治システム、経済システム、家族システムなどがある。それぞれの社会システムは「機能的に分化」しており、政治システムの成果メディア^{*4)}は、権力である。旧体制において、政治システムは他の全ての社会コミュニケーションを拘束／制約していたが、市場主義体制に移行する際、別の階層関係が生じたと言える。

西垣先生によれば、「短期的=瞬時的なコミュニケーションと対比して、長期的=歴史的な情報伝達は『プロパゲーション（意味伝播）』^{*1)}と呼ばれる。」プロパゲーションとは、HACS^{*2)}が学習し、システムが学習や進化することによって、価値観や思想などが伝播するプロセスを指す。また、HACSの学習や進化だけでなく、新たなHACSが誕生することもあると仮定される。

個人や社会組織などのHACSが学習し、そこに新たな意味構造／概念構造が徐々に形成されていくことにより、価値観や思想、科学技術的知識などのプロパゲーションが実行され、人々のあいだで共有されていく。しかし、プロパゲーションのなかにはこういった漸次的な変化だけでなく、化学的相転移のような急激な変化もある。それは端的には、新たなHACSの誕生に他ならない。

「トンネル効果」がもたらした影響は、プロパゲーション、そしてHACSの学習や進化と関連が深いと考えられる。体制の変化により、一攫千金のアメリカンドリームがマス・メディアから社会システムに与えられ、ロシアの人びとのあいだに共有されていれば、新たなHACS「自らの工夫や努力により夢を実現する社会」が生まれる可能性があった。しかし、実際には金融経済は悪化し、政治が腐敗している中で、一部の人々だけが富を手にする時期が続いた。まだ富を手にしていない他の人々のあいだに「今より悪くなることはない、このまま進めば富を得ることができるだろう」という論理に基づくコミュニケーションが生じていたということだろう。そのため、長期的に自らの幸福のために何をすべきかと思考

するよりも、準拠集団の HACS の拘束／制約を受けて、「次には、自分にも幸運の女神が訪れる」と期待を抱く価値判断が浸透したのである。この場合の成果メディアは「準拠集団に倣う」であろう。このロシア社会における変革期のプロパゲーションとは、このようなコミュニケーションが、似たような準拠集団にも連鎖して次々に発生することにより、「トンネル効果」という価値観が伝播していったことであると考えられる。

セレズネワ氏のキーメッセージの意味内容を解釈し、メッセージを改変して、プロジェクト・メンタル・プロセス^{*5)} (HACS) を形作るヒントとして挙げたい。

- ・いつも楽観的にプロジェクトの結果を考えなさい。そして成功を願いなさい。
- ・その一方で、自律的に組織力を高める行動を積極的にしなさい。知識の量を増やし、技術力を高めなさい。
- ・この世は絶えず変化し続けている。慣習や古いやり方に捉われたり、黙って従っていてはならない。

そして、プロジェクト・メンタル・プロセスの成果メディアは「やりがい」であることを強調したい。

IS 技術者の方々がやりがいを持って働くことができるよう、そして組織がよい方向に向かうために何がよいのかについて、本稿では今後も探って参ります。皆様からのご指摘やご意見をお待ちしています。

<注釈>

*1) プロパゲーション（意味伝播）とは：

基礎情報学的には、情報の産出は第一の層マイクロ層と第二の層マクロ層に分けて捉える。コミュニケーションの産出はマイクロ層の積み重ねであり、長期的に累積され、HACS の意味構造や連辞用プログラムが変質し、システムが「進化」することがある。学習や進化によって、体系的＝包括的な意味内容、つまり価値観やイデオロギーも社会的に伝播していく。このようなマクロ層における意味内容の伝播作用を「プロパゲーション」という。

*2) HACS とは：

Hierarchical Autonomous Communication System の略。「階層的自律コミュニケーション・システム」 基礎情報学の主要な概念であり、情報の意味伝達モデルである。人の心的システムの上位概念に社会システムがあり、さらにその上にマス・メディアがあるとして階層的に位置づける点の特徴である。

*3) 心的システムとは：

「思考」を構成素とするオートポイエティック・システムである。心的システムは常に脳神経システムと相互作用し、「原一情報」（＝生命情報）を素材とした思考が算出され、記述行為によって社会情報が形成され、人間社会で通用する意味内容を含んだ情報が現れると

される。

*4) 成果メディア、範列的メディアとは：

成果メディアは、連辞的メディアと範列的メディアに分類される。連辞的メディアは、コミュニケーションの時間的・継起的なつながりに関わり、範列的メディアはコミュニケーションの空間的・概念的なつながりに関わる。範列的メディアは安定した意味ベースに関連づけ、概念上の選択肢を用意することにより、「情報の意味伝達」という擬制が達成される。

*5) プロジェクト・メンタル・プロセスとは：

「新情報システム学序説 情報システム学会新情報システム学体系調査研究委員会編」において、プロジェクトマネジメントの機能、役割を構成するプロセスとして、従来より明示されている「プロジェクトマネジメント・プロセス」および「ソフトウェア・エンジニアリング・プロセス」に加えて、第3のプロセス「プロジェクト・メンタル・プロセス」が重要であると示されている。

<参考文献>

- ・レオ ボルマンズ編[猪口孝 監訳] (2016) 世界の学者が語る「幸福」 西村書店
- ・西垣通 (2004) 基礎情報学：生命から社会へ NTT 出版
- ・西垣通 (2008) 続 基礎情報学：「生命的組織」のために NTT 出版
- ・西垣通 (2012) 基礎情報学入門：生命と機械をつなぐ知 高陵社書店